

論 説

ヨーロッパ契約法

——ヨーロッパ共通売買法 (CESL) への道、それを超えて——

ユルゲン・バーゼド

〈訳〉 カライスコス・アントニオス

目 次

- I 序説——EU私法の特徴
- II 指令を通じた平準化
- III 強行的な規則 mandatory regulations を通じた統一
- IV 規則によって設けられた選択的ルール
  - 1 概 観
  - 2 選択的な性質
  - 3 共通の特色
- V CESL 提案のより詳細な分析
  - 1 適用範囲——規則の本文
  - 2 売買法の実体法的ないくつかの側面——付屬文書
- VI 結 論
  - 3 展 望
- 【質疑応答編】
  - I コメントと質問
    - 1 EU私法の発展とCESLの位置づけ
    - 2 消費者契約における強行法規とEU私法
  - II 講演会参加者との討論
    - 1 日本民法（債権関係）改正とCISG・CESL
    - 2 ヨーロッパ司法裁判所の判例とCESLの解釈
  - III 講演会と質疑応答を終えるにあたって